
荒野の果てに

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

荒野の果てに

【Nコード】

N3761P

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

荒野をさすらう長剣を持った男。弱肉強食の世界で繰り広げられる小さな殺戮の物語。

(前書き)

男の目的は誰も知らない。

「うおりゃああああ!!」

男は相手に素早く近付くと手にした身の丈の倍もあるような剣を下から空に向けて斬り放った。

「……………」

男の前の相手は、声を出す間もなく、左右真っ二つに割れると、臓物を撒き散らしながら倒れ込んだ。

「ふう!! 汚え!!」

男は剣をブウウンと振ると剣に付いた血痕を辺りに撒き散らした。

「じゃあな! 二度と俺に喧嘩売らんじゃねえぞ。まあ、その身体じゃ無理か」

と言いながら、長剣を肩に担ぐと荒野の中を歩いて行った。

世界は狂っていた。『弱肉強食』言うのも聞くのも簡単だが、全てはこの『弱肉強食』によって成り立っていた。

強者は剣や刀、素手や銃という手段を用いてやりたい放題の生活をおくり、弱者は強敵に脅えながら、この世界の滅亡を願っていた。

ある街に一人の放浪者が辿り着いた。放浪者はまず、食べ物のある所を探し、一軒の飲食店に入るとカウンターに座り

「何でも良いからメシ」

と言うと、そのまま店内を見渡した。

しばらくして

「こんな物で良ければ……………」

と、肉の塊を持ってきた。

「デメェ!! 一口食ってみろ」

と男は店主に言う、店主を睨み付けた。

「は、はい！」

店主は、そう返事すると肉の塊の一部にかぶりつき、引きちぎると、よく噛んでから飲み込んだ。

「よし。毒は入ってねえみたいだな」

と言ってから、肉を食べようとした瞬間だった。

「よう。オッサン。上手そうな物食ってんじゃねえか。俺にそれよこしな！！」

と言うや否や、男は両手から短刀を取り出すと、一歩後退し、まるでマジックかのように次から次へと袖から出る短刀を連続で投げつけてきた。

「メシくらい、静かに食いてえモノだな」

そう言うとき男は肩に担いだ身の丈の倍もある剣を左手で構え、右手に肉を掴み、軽やかに短刀を交わしつつ、右から左への一閃を放つと、男の腰を真つ二つに斬り離し、右手に持った肉を一かじりすると、男の頭に長剣を差し込み、店主に向かって

「ほらよ。食料」

と放り投げた。

「ああ……ああ……」

店主は声も出ない様子でカウンターの中に投げ込まれた肉塊の前に座り込んでしまった。

「こいつも食料になるかい？」

と男は下半身も長剣で串刺しにすると、上半身の上に投げ込んだ。

「じゃ。ごちそうさま」と男は右手に肉の塊を持ったまま店を出ようとした。

「な、名前は……」

後ろから店主の声が聞こえた為

「ガイだ。四天王寺してんのうじガイだ。忘れろよ。俺の名前なんてよ」

と答えると、店から出て行った。

「四天王寺……ガイ」

店主はそう呟くと、目の前の肉塊を店の冷凍庫へと運んでいった。

ガイが店から出ると、数名の男女が店を取り囲むようにして、座り込んでいた。

「なあ、オッサン強ええんだな」

一人の少年が立ち上がり話し掛けてきた。

「オッサン。その剣見せてくれない？」

と、剣に手を伸ばした瞬間！　ガイはその少年を十文字に斬り刻んでいた。

「オッサン。怖い怖い」

仲間が殺されたというのに残りの男女は冷静に話し掛けてくる。

「なあ、オッサン。俺達もよ腹減ってんだ。ここで俺等のメシになつてくんねえかなあああ！！」

と突然四散すると、短刀を投げってくる少年。刀を抜刀し斬り掛かってくる少年。長距離へ離脱し、オートリロードタイプの銃を乱射する少女。いきなり近接距離へと近付くと拳と蹴りを連続して繰り出してくる少女の四タイプに別れ、変則的な攻撃を仕掛けてきた。

「ふっ」とガイは失笑すると、右手に持っていた肉を投げ捨て、右手を握り締めると近接攻撃を仕掛ける少女に詰め寄り、腹に一撃のブローを放つと、その拳は背中へと突き抜け、そのまま少女の頭を持つと、少女を後ろへ折り曲げた。そのまま少女を盾のように使い、刀を持った少年に素早く駆け込み、左手に持った長剣で少年の首と身体を切り離れた。と同時に二つ折りになった少女を銃を乱射する少女の方へ投げ捨てると、短刀を投げってくる少年に近付き、その両腕を少年の持っていた刀で切り離すと両足を長剣で斬り離れた。最後に残った少女に不敵な笑みを浮かべ、短刀を連続で投げかけ、そのスピードと変わらぬ速さで近寄ると喉元に長剣を差し出し

「後はテメエだけだ！　死ぬか！？　逃げるか！？」と言った。少

女はガタガタと震えながら

「死ぬのはイヤァ！！」

と後ろを向いた瞬間

「戦場において情けはしない」

とガイは逃げようとする少女を後ろから真っ二つに斬り割っていた。

「喧嘩……売る相手が、悪かったな!!」

とガイは、もう一度店に戻り、震えて声も出ない店主に

「店の前に食料が転がってんぞ」

とだけ言うと、店を出て行った。

店を出ると、投げ捨てた肉を拾い上げ、貪りながら街を後にし、
また荒野に姿を消して行った。

「四天王寺……ガイ」

店主は震えたまま、その名前を繰り返し

「この世界の……救世主……なのか………」
と呟いた。

(後書き)

読んで頂きありがとうございます。

特に続きを考えて書いた訳ではありません。

感想や指摘がありましたら、よろしくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3761p/>

荒野の果てに

2010年12月8日15時30分発行